



セカンド・パーティ・オピニオン

SECOND PARTY OPINION

キリンホールディングス株式会社

キリン・サステナブルファイナンス・フレームワーク

Prepared by: DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

Location: 神戸, 日本

Date: 2022 年 3 月 18 日

Ref. Nr.: PRJN-340461-2022-AST-JPN-01

報告書サマリー

キリンホールディングス株式会社(以下、キリンホールディングス)は、キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社、Lion Pty Ltd、協和キリン株式会社、協和発酵バイオ株式会社等によって構成されるキリングループの持株会社です。日本及びアジア、オセアニア地域を中心に、祖業より培った発酵・バイオテクノロジーを生かし「食領域」(酒類・飲料事業)と「医領域」(医薬事業)に加え、2つの中間領域である「ヘルスサイエンス領域」(ヘルスサイエンス事業)を展開しています。

キリンホールディングスは、長期経営構想「キリングループ・ビジョン 2027」において、「食から医にわたる領域で価値を創造し、世界の CSV 先進企業となる」ことを目指しています。また、企業としての成長と、社会が抱える課題の解決を同時に実現するために、事業活動そのものが社会課題解決となる CSV(Creating Shared Value=共通価値の創造)を実践することが重要と考え、CSVを経営の根幹に据えて、社会に良いインパクトをもたらす、持続的に成長することを目指しています。この「キリングループ・ビジョン 2027」の長期非財務目標として、「CSV パーパス」を策定しました。「CSV パーパス」とは、社会と価値を共創し持続的に成長するための指針であり、「CSV パーパス」に掲げる「健康」「コミュニティ」「環境」における環境課題及び社会課題の解決に取り組むために必要な資金をグリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンスとして調達するため、「キリン・サステナブルファイナンス・フレームワーク」を策定しました。

キリンホールディングスは、DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、DNV)に「キリン・サステナブルファイナンス・フレームワーク」(以下、フレームワーク)及びそれに基づき実行が計画されているキリン・サステナブルファイナンスの実行前評価を委託しています。DNV は外部レビュー機関として、当該プロジェクトのグリーン性及びソーシャル性について、現在資本市場において幅広く認知されている以下のサステナブルファイナンスの原則やガイドラインで定められる 4 つの核となる要素を参照もしくは適用し、フレームワーク及びキリン・サステナブルファイナンスの適格性を評価しました。

- サステナビリティボンドガイドライン (国際資本市場協会、2021 以下、SBG)
- グリーンボンド原則 (国際資本市場協会、2021 以下、GBP)
- グリーンボンドガイドライン (環境省、2020 以下、GBGLs)
- ソーシャルボンド原則 (国際資本市場協会、2021 以下、SBP)
- ソーシャルボンドガイドライン (金融庁、2021 以下、SBGLs)
- グリーンローン原則 (ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)他、2021 以下、GLP)
- グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン(環境省、2020 以下、GLGLs)(グリーンローンのみ適用)

評価結果の概要は、以下の通りです。

要素-1.調達資金の使途：

キリン・サステナブルファイナンスを通じて調達する資金が、SBG、GBP・GBGLs、SBP・SBGLs 及び GLP・GLGLs で示される下表の代表的な適格プロジェクトカテゴリーに合致した、6 つの候補となるグリーンプロジェクト及びソーシャルプロジェクトに充当される計画であることを確認しました。適格サステナブルプロジェクトポートフォリオの概要は、下表及びスケジュール-1 を参照してください。

要素-2.プロジェクトの評価と選定のプロセス：

適格サステナブルプロジェクトの評価と選定は、経理部及び CSV 戦略部がフレームワークで定めた適格クライテリアを満たすプロジェクト(適格プロジェクト)を選定し、財務戦略担当執行役員が選定された適格プロジェクトの最終決定を行うこと、またプロジェクトの適格性については、「CSV パーパス」達成への貢献性を総合的に評価していることを確認しました。

上記のプロセスを経て評価・選定された 6 つの候補プロジェクトについて、キリンホールディングスの「CSV パーパス」に加えて「持続的成長のための経営諸課題(グループ・マテリアリティ・マトリックス)」における重要課題と密接に関連しており、キリンの環境・社会的な持続可能性に関する取組みと整合している事を確認しました。

要素-3.調達資金の管理：

調達資金は、キリンホールディングスが資金調達後 1 年以内に適格プロジェクトのファイナンス及びリファイナンスに充当する計画であることを確認しました。またリファイナンスの場合は、キリン・サステナブルファイナンス実行時点から 5 年以内に実施した設備投資に係る支出、又は 3 年以内に発生した費用に係る支出(いずれも、償還または返済期間中に環境改善効果及び社会的便益が維持されることが確認されたプロジェクト)への充当とすることを確認しました。資金充当状況については、半期毎にキリンホールディングスの経理管理手順に基づき、プロジェクト毎に経理部が管理すること、適格プロジェクトの合計金額が調達資金を下回らないように内部管理システムを用いて管理することを確認しました。未充当資金は、充当されるまでの間、現金又は現金同等物にて管理する予定です。

要素-4.レポーティング：

DNV は、キリンホールディングスが、調達資金が充当されるまでの間、キリン・サステナブルファイナンスのレポーティング(年次報告)を実施し、資金充当状況(プロジェクト名称、進捗状況を含むプロジェクトの概要、充当額及び未充当額)を開示することを確認しました。またキリンホールディングスは、環境改善効果及び社会的便益について、調達資金が償還または全額返済されるまでの間、各プロジェクトで定めた指標に関してレポーティングを実施する予定です。調達資金の全額充当後、計画または実績に大きな変更が生じる等の重大な事象が生じた場合は、適時に開示する予定です。レポーティングは、キリンホールディングスのウェブサイトを開示される予定です。

DNV は、フレームワークをはじめとする キリンホールディングスより提供された関連文書・情報から、キリン・サステナブルファイナンスが関連する基準を満たし、適切に計画され、実施される見込みであることを確認しました。

表 適格サステナブルプロジェクトポートフォリオの概要

No.	大項目	グリーンプロジェクト分類	グリーンプロジェクト	グリーンプロジェクト概要		環境課題	SDGsへの貢献
1	省エネルギーに関する事業	省エネルギー	工場におけるヒートポンプシステムの導入	設置場所：キリンビール株式会社 北海道千歳工場・仙台工場・取手工場・横浜工場・名古屋工場・滋賀工場・神戸工場・岡山工場・福岡工場など 導入時期：2019年～2028年 総投資額：約20～30億円		気候変動の緩和	  
2	汚染防止と管理に関する事業及び環境配慮製品、環境に配慮した製造技術・プロセスに関する事業	・汚染防止と管理 ・環境配慮製品、環境に配慮した製造技術・プロセス	再生PET樹脂の調達・設備投資	日本国内のPETボトルにおけるリサイクル樹脂使用比率 2027年50%に向けた再生PET樹脂の調達・設備投資		・汚染防止と管理 ・天然資源の保全	  
3	再生可能エネルギーに関する事業	再生可能エネルギー	工場における太陽光発電設備の導入	設置場所：キリンビール株式会社 北海道千歳工場・仙台工場・取手工場・名古屋工場・滋賀工場・神戸工場・岡山工場・福岡工場など 導入時期：2021年～2029年 総投資額：約20～30億円		気候変動の緩和	  
			再生可能エネルギーの調達	購入電力の再生可能エネルギーへの切り替え			
No.	大項目	ソーシャルプロジェクト分類	ソーシャルプロジェクト			社会課題	SDGsへの貢献
			ソーシャルプロジェクト概要	対象者	社会的便益		
4	主に乳幼児の健康増進/病気予防を通して健康・長寿社会の達成に貢献する事業	必要不可欠なサービスへのアクセス (健康・健康管理)	ヒトミルクオリゴ糖製造に資する設備投資・運営・原材料の調達	一般大衆	ヒトミルクオリゴ糖配合製品を提供し、幅広い地域・年齢層のお客様の健康増進に貢献	乳幼児の健康増進	  
5	脳機能パフォーマンス向上と衰え予防を通して健康・長寿社会の達成に貢献する事業		シチコリン製造に資する設備投資・運営・原材料の調達	一般大衆、高齢者、患者	シチコリン配合製品を健康食品や医薬品原料として提供し、お客様の脳機能のパフォーマンス向上と衰え予防に貢献	脳機能のパフォーマンス向上と衰え予防	
6	免疫機能の維持を通して健康・長寿社会の達成に貢献する事業		プラズマ乳酸菌の研究開発及びプラズマ乳酸菌原料粉末の製造に資する設備投資・運営・原材料の調達	一般大衆、高齢者、脆弱な若者	プラズマ乳酸菌配合製品を提供し、お客様の免疫機能維持に貢献	免疫機能の維持	

目次

報告書サマリー	2
I. まえがき	5
II. スコープと目的	9
III. キリンホールディングス及び DNV の責任	10
IV. DNV 意見の基礎	11
V. 評価作業	12
VI. 観察結果と DNV の意見	13
VII. 評価結果	19
スケジュール-1 キリン・サステナブルファイナンス候補プロジェクト	21
スケジュール-2 キリン・サステナブルファイナンス適格性評価手順	24

改訂履歴

改訂番号	発行日	主な変更内容
0	2022 年 3 月 18 日	初版発行

Disclaimer

Our assessment relies on the premise that the data and information provided by Issuer to us as part of our review procedures have been provided in good faith. Because of the selected nature (sampling) and other inherent limitation of both procedures and systems of internal control, there remains the unavoidable risk that errors or irregularities, possibly significant, may not have been detected. Limited depth of evidence gathering including inquiry and analytical procedures and limited sampling at lower levels in the organization were applied as per scope of work. DNV expressly disclaims any liability or co-responsibility for any decision a person or an entity may make based on this Statement.

Statement of Competence and Independence

DNV applies its own management standards and compliance policies for quality control, in accordance with ISO/IEC 17021:2011 - Conformity Assessment Requirements for bodies providing audit and certification of management systems, and accordingly maintains a comprehensive system of quality control, including documented policies and procedures regarding compliance with ethical requirements, professional standards and applicable legal and regulatory requirements. We have complied with the DNV Code of Conduct¹ during the assessment and maintain independence where required by relevant ethical requirements. This engagement work was carried out by an independent team of sustainability assurance professionals. DNV was not involved in the preparation of statements or data included in the Framework except for this Statement. DNV maintains complete impartiality toward stakeholders interviewed during the assessment process.

¹ DNV Code of Conduct is available from DNV website (www.DNV.com)

I. まえがき

i. 資金調達者について

キリンホールディングス株式会社(以下、キリンホールディングス)は、キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社、Lion Pty Ltd、協和キリン株式会社、協和発酵バイオ株式会社等によって構成されるキリングループの持株会社です。日本及びアジア、オセアニア地域を中心に、祖業より培った発酵・バイオテクノロジーを生かし「食領域」(酒類・飲料事業)と「医領域」(医薬事業)に加え、2つの中間領域である「ヘルスサイエンス領域」(ヘルスサイエンス事業)を展開しています。

グループ経営理念を、「キリングループは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します」としています。

ii. 資金調達者の ESG/SDGs への取り組み

キリンホールディングスは、長期経営構想「キリングループ・ビジョン 2027」において、「食から医にわたる領域で価値を創造し、世界の CSV 先進企業となる」ことを目指しています。また、企業としての成長と、社会が抱える課題の解決を同時に実現するために、事業活動そのものが社会課題解決となる CSV (Creating Shared Value= 共通価値の創造)を実践することが重要と考え、CSV を経営の根幹に据えて、社会に良いインパクトをもたらす、持続的に成長することを目指しています。

この「キリングループ・ビジョン 2027」の長期非財務目標として、社会と価値を共創し持続的に成長するための指針が「CSV パーパス」です。キリングループは、「酒類メーカーとしての責任」を果たし、「健康」「コミュニティ」「環境」という社会課題に取り組むことで、こころ豊かな社会を実現し、お客様の幸せな未来に貢献することを掲げています(表-1 参照)。

「CSV パーパス」を策定するにあたり、社会とともに持続的に存続・発展していくうえでの重要課題を「持続的成長のための経営諸課題 (グループ・マテリアリティ・マトリックス: GMM)」に整理しています(図-1 参照)。マテリアリティ選定に当たっては、各課題に対して選定基準を設けています([キリンホールディングス ウェブサイト「マテリアリティ選定基準」参照](#))。また、「CSV パーパス」の達成のための中期アクションプランとして「CSV コミットメント」を設定し、グループ/事業会社の事業計画に組み込んでいます([キリンホールディングス ウェブサイト「コミットメントおよび成果指標一覧」参照](#))。

表-1 キリングループの「キリングループ・ビジョン 2027」と「CSV パーパス」

「キリングループ・ビジョン 2027」		
食から医にわたる領域で価値を創造し、世界の CSV 先進企業となる		
CSV パーパス		
酒類メーカーとしての責任		
全ての事業展開国で、アルコールの有害摂取の根絶に向けた取り組みを着実に進展させる。 (Zero Harmful Drinking)		
		
社会課題のカテゴリー	メッセージ	関連する SDGs
I 健康	健康な人を増やし、疾病に至る人を減らし、治療に関わる人に貢献する。	  
II コミュニティ	人と人とのつながりを創り、「心と体」に、そして「社会」に前向きな力を創り出す。	      
III 環境	ポジティブインパクトで、持続可能な地球環境を次世代につなぐ。	       

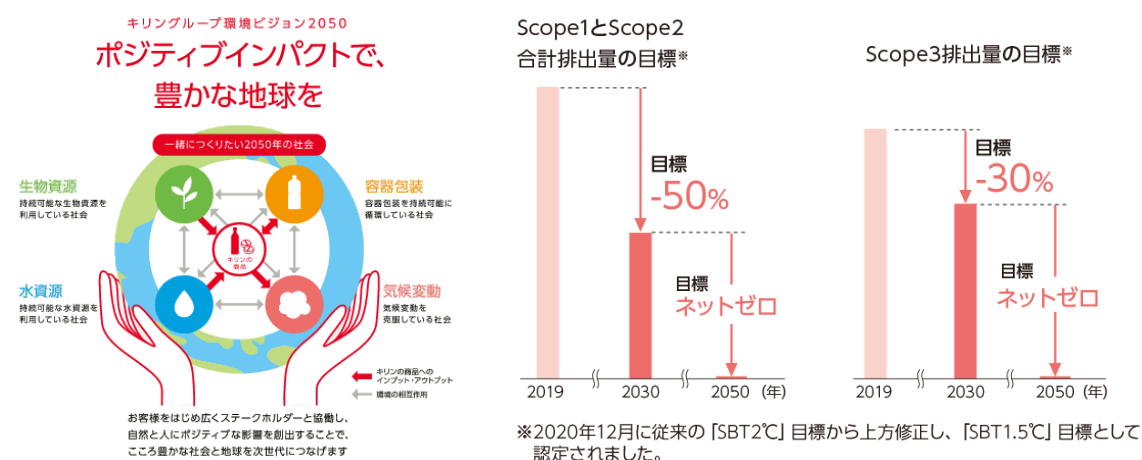


図-1 持続的成長のための経営諸課題(グループ・マテリアリティ・マトリックス)

iii. 資金調達者の環境課題及び社会課題への取組み

キリングroupは、地球環境の課題解決に先駆けとなって取り組むべく、2050 年を見据えた長期戦略「キリングroup環境ビジョン 2050」を策定しています。キリングroupの環境課題への取組みのひとつとして、気候変動の克服があり、2050 年にバリューチェーン全体の GHG をネットゼロにすること、2040 年に使用電力を 100%再生可能エネルギーへ転換することを宣言しています。2020 年 11 月には、日本の食品会社としては初めて、SBT イニシアチブ（SBTi）の科学的な根拠に基づいた目標である「SBT1.5℃」目標の認定を取得しました。

またキリンホールディングスは 2019 年に、世界的なプラスチック廃棄物問題の解決に向けた取り組み方針「キリングroup プラスチックポリシー」を策定し、日本国内の PET ボトルにおけるリサイクル樹脂の使用割合を 2027 年までに 50%にすることを宣言しました。2020 年 2 月に発表した「キリングgroup環境ビジョン 2050」では、2050 年までにリサイクル材やバイオマスなどを使用した持続可能な容器包装 100%化に向けても取り組みを進めることとしています。



キリングgroupは「CSV パーパス」における重点課題のひとつに「健康」を掲げており、その中でも「免疫」「脳」「腸内環境」を重点領域として、キリングgroupのコアコンピタンスである発酵&バイオテクノロジーにより産み出される戦略素材を用いた商品およびサービスを通して、これら領域における健康課題を解決しています。

具体的には、栄養へのアクセス向上、脳機能のパフォーマンス向上と衰え予防の支援や、免疫機能の維持支援などを重要な取組みとして掲げています。微生物を活用した発酵生産技術によって大量生産に成功した、ヒトの母乳独自の栄養成分であるヒトミルクオリゴ糖や、キリンの脳研究から生まれた、加齢に伴って低下する“記憶力を維持する”ことをサポートするキリン独自素材「βラクトリン(シチコリン)」、免疫の司令塔であるpDC（プラズマサイトイド樹状細胞）を活性化させる世界初のプラズマ乳酸菌など、さまざまな研究開発の成果として高機能な製品を提供することで、日本だけでなく、世界の社会課題や健康課題の解決に貢献しています。



iv. 「キリン・サステナブルファイナンス・フレームワーク」について

キリンホールディングスは、「CSV パーパス」に掲げる「健康」「コミュニティ」「環境」における社会課題の解決に取り組むために必要な資金をグリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンスとして調達するため、「キリン・サステナブルファイナンス・フレームワーク」を策定しました。このフレームワークが参照した枠組みについては、後述のⅡ項(3)に記載されています。

グリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンスで調達した資金の手取り金額全額は、下記のグリーンプロジェクト及びソーシャルプロジェクトの各カテゴリーに充当することを計画しており、確立したフレームワークに基づき管理・実行されます。

【グリーンプロジェクト】

- **省エネルギーに関する事業**
(工場におけるヒートポンプシステムの導入)
- **汚染防止と管理に関する事業及び環境配慮製品、環境に配慮した製造技術・プロセスに関する事業**
(再生 PET 樹脂の調達・設備投資)
- **再生可能エネルギーに関する事業**
(工場における太陽光発電設備の導入・再生可能エネルギーの調達)

【ソーシャルプロジェクト】

- **主に乳幼児の健康増進/病気予防を通して健康・長寿社会の達成に貢献する事業**
(ヒトミルクオリゴ糖製造に資する設備投資・運営・原材料の調達)
- **脳機能パフォーマンス向上と衰え予防を通して健康・長寿社会の達成に貢献する事業**
(シチコリン製造に資する設備投資・運営・原材料の調達)
- **免疫機能の維持を通して健康・長寿社会の達成に貢献する事業**
(プラズマ乳酸菌の研究開発及びプラズマ乳酸菌原料粉末の製造に資する設備投資・運営・原材料の調達)

II. スコープと目的

キリンホールディングスは、DNV に「キリン・サステナブルファイナンス・フレームワーク」(以下、フレームワーク)及びキリン・サステナブルファイナンスの実行前評価を委託しています。DNV におけるキリン・サステナブルファイナンス実行前評価の目的は、キリン・サステナブルファイナンスが、後述する基準である SBG、GBP・GBGLs、SBP・SBGLs 及び GLP・GLGLs 等に合致していることを確認するための評価を実施し、その適格性についてセカンド・パーティ・オピニオンを提供することです。

DNV は独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティ・オピニオンの提供に際し、キリンホールディングスとは事実及び認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。また、この報告書では、キリン・サステナブルファイナンス及び今後このフレームワークに基づき実行されるグリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンスの財務的なパフォーマンス、いかなる投資の価値、あるいは長期の環境便益に関する保証も提供されません。

(1) レビューのスコープ*

レビューは以下の項目について評価し、SBP 等の主要な 4 要素の主旨との整合性について確認されました。

- | | |
|---|---|
| ☒ 調達資金の使途 | ☒ プロジェクトの選定と評価のプロセス |
| ☒ 調達資金の管理 | ☒ レポーティング |

(2) レビュー提供者の役割

- | | |
|---|------------------------------|
| ☒ コンサルタント・レビュー(セカンド・オピニオンを含む) | ☐ 認証 |
| ☐ 検証 | ☐ 格付け |
| ☐ その他: | |

(3) 適用または参照される基準/ガイドライン

No.	基準/ガイドライン	発行者	適用レベル ^{*1*2}
1.	サステナビリティボンドガイドライン 2021(SBG)	国際資本市場協会(ICMA)、2021	適用
2.	グリーンボンド原則 2021(GBP)	国際資本市場協会(ICMA)、2021	適用
3.	グリーンボンドガイドライン 2020 年版(GBGLs)	環境省、2020	適用
4.	ソーシャルボンド原則 2021(SBP)	国際資本市場協会(ICMA)、2021	適用
5.	ソーシャルボンドガイドライン 2021 年版(SBGLs)	金融庁、2021	適用
6.	グリーンローン原則 2021(GLP)	ローン・マーケット・アソシエーション(LMA)他、2021	適用
7.	グリーンローンガイドライン 2020 年版(GLGLs)	環境省、2020	適用
8.	気候ボンド基準 3.0 版[セクター技術基準:太陽光関連セクター基準 2.1 版] (CBS-SE 2.1)	気候ボンドイニシアチブ、2020	参照
9.	グリーンボンド及びソーシャルボンド:持続可能な開発目標(SDGs)に照らしたハイレベルマッピング	国際資本市場協会(ICMA)、2020	参照
10.	インパクトレポーティング調和化に関する冊子	国際資本市場協会(ICMA)、2021	参照

*1 適用:各原則やガイドラインに共通する 4 要素全てに対する適格性を評価した

*2 参照:グローバルで認知されている気候ボンド基準のセクター技術基準のうち参照可能な基準を用い、対象プロジェクトの適格性を評価しました。

Ⅲ. 麒麟ホールディングス及び DNV の責任

麒麟ホールディングスは、DNV がレビューを実施するために必要な情報やデータを提供しました。DNV のセカンド・パーティ・オピニオンは、独立した意見を表明するものであり、我々に提供された情報を基に、確立された基準が満たされているかどうかについて麒麟ホールディングス及び麒麟・サステナブルファイナンスの利害関係者に情報提供することを意図しています。我々の業務は、麒麟ホールディングスから提供された情報及び事実に依拠しています。DNV は、この意見表明の中で参照する選定された活動のいかなる側面に対して責任がなく、麒麟ホールディングスから提供された情報及び事実に基づく試算、観察結果、意見又は結論が不正確である場合、それに対し責任を問われることはありません。従って DNV は、麒麟ホールディングスの関係者から提供されたこの評価の基礎として使用された情報やデータの何れかが正確または完全でなかった場合においても、責任を問われないものとします。

IV. DNV 意見の基礎

DNV は、資金調達者であるキリンホールディングスにとってより柔軟なグリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンス適格性評価手順（以下、「手順」）を適用するために、SBG、GBP・GBGLs、SBP・SBGLs 及び GLP・GLGLs の要求事項を考慮した手順を作成しました。スケジュール-2 を参照してください。この手順は SBG、GBP・GBGLs、SBP・SBGLs 及び GLP・GLGLs 等に基づくグリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンスに適用可能です。

DNV はこの手順に基づく評価により、独立した外部レビュー機関としてセカンド・パーティ・オピニオンを提供します。DNV の手順は、DNV の意見表明の根拠に資する一連の適切な基準を含んでいます。その基準の背景にある包括的な原則は、グリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンスが「社会及び環境への利益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」というものです。DNV の手順に従って、レビュー対象である当該キリン・サステナブルファイナンスに対する基準は GBP、SBP、GLP 等で示される、それぞれ 4 つの共通要素にグループ分けされます。

要素1. 調達資金の使途

調達資金の使途の基準は、グリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンスの資金調達者がグリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンスにより調達した資金を適格プロジェクトに使わなければならない、という要求事項によって定められています。適格プロジェクトは、明確な環境改善効果及び社会的便益を提供するものです。

要素2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

プロジェクトの評価及び選定の基準は、グリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンスの資金調達者が、グリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンス調達資金を使途とする投資の適格性を判断する際に従うプロセスの概要を示さなければならない、また、プロジェクトが目的に対する影響をどのように考慮しているかの概要を示さなければならない、という要求事項によって定められています。

要素3. 調達資金の管理

調達資金の管理の基準は、グリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンスが資金調達者の組織によって追跡管理されなければならないこと、また、必要な場合には、区別されたポートフォリオを構築し、未充当資金がどのように扱われるか公表するという観点で作成されなければならないことが、要求事項によって定められています。

要素4. レポートニング

レポートニングの基準は、グリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンスへの投資家に対して、少なくとも、資金の充当状況及び可能な場合には定量的もしくは定性的かつ適切なパフォーマンス指標を用いたサステナビリティレポートを発行する、という推奨事項によって定められています。

V. 評価作業

DNV の評価作業は、資金調達者によって誠実に情報提供されたという理解に基づいた、利用可能な情報を用いた包括的なレビューで構成されています。DNV は、資金調達前の評価では、提供された情報の正確性をチェックするための監査やその他試験等を実施していません。DNV の意見を形成する評価作業には、以下が含まれます。

i. 資金調達前アセスメント

- この評価に資する上述及びスケジュール-2 に関し、キリン・サステナブルファイナンスへの適用を目的とした資金調達者特有の評価手順の作成。
- このキリン・サステナブルファイナンスに関して資金調達者より提供された根拠文書の評価、及び包括的なデスクトップ調査による補足的評価。これらのチェックでは、最新のベストプラクティス及び標準方法論を参照。
- 資金調達者との協議及び、関連する文書管理のレビュー。
- 基準の各要素に対する観察結果の文書作成。

ii. 資金調達後アセスメント（*この報告書には含まれません）

- キリン・サステナブルファイナンス調達後に、資金調達者により提供された根拠書類の評価、包括的なデスクレビューによる補足評価
- 資金調達者の管理者へのインタビュー及び関連する文書管理のレビュー
- 現地調査及び検査(必要な場合)
- 資金調達後時点での対象プロジェクト及び資産のレビュー(スケジュール-1 に記載された内容の更新)
- 資金調達後アセスメントでの観察結果の文書作成

VI. 観察結果と DNV の意見

DNV の観察結果と意見は下記の(1)～(4)の SBG、GBP・GBGLs、SBP・SBGLs 及び GLP・GLGLs に共通する 4 つの要素に対するものです。

(1) 調達資金の使途

DNV は、キリン・サステナブルファイナンスを通じて調達する資金が、SBG、GBP・GBGLs、SBP・SBGLs 及び GLP・GLGLs で示される以下の代表的な適格プロジェクトカテゴリーに合致した 6 つのサステナブルプロジェクトポートフォリオ(表-2)に充当される計画であることを確認しました。フレームワークに含まれる環境及び社会に貢献する候補プロジェクトは、表-2 の 1～6 の適格サステナブルプロジェクトポートフォリオに分類され、調達資金の手取り金は、表-2 に示す候補プロジェクトのうち、何れか又は複数の適格性が評価されたプロジェクトに充当されます。適格サステナブルプロジェクトポートフォリオの詳細はスケジュール-1 を参照してください。

表-2 サステナブルプロジェクトポートフォリオ(詳細はスケジュール-1 を参照してください)

No.	大項目	グリーンプロジェクト分類	グリーンプロジェクト	グリーンプロジェクト概要		環境課題	SDGsへの貢献
1	省エネルギーに関する事業	省エネルギー	工場におけるヒートポンプシステムの導入	設置場所：キリンビール株式会社 北海道千歳工場・仙台工場・取手工場・横浜工場・名古屋工場・滋賀工場・神戸工場・岡山工場・福岡工場など 導入時期：2019年～2028年 総投資額：約20～30億円		気候変動の緩和	  
2	汚染防止と管理に関する事業及び環境配慮製品、環境に配慮した製造技術・プロセスに関する事業	・汚染防止と管理 ・環境配慮製品、環境に配慮した製造技術・プロセス	再生PET樹脂の調達・設備投資	日本国内のPETボトルにおけるリサイクル樹脂使用比率 2027年50%に向けた再生PET樹脂の調達・設備投資		・汚染防止と管理 ・天然資源の保全	  
3	再生可能エネルギーに関する事業	再生可能エネルギー	工場における太陽光発電設備の導入	設置場所：キリンビール株式会社 北海道千歳工場・仙台工場・取手工場・名古屋工場・滋賀工場・神戸工場・岡山工場・福岡工場など 導入時期：2021年～2029年 総投資額：約20～30億円		気候変動の緩和	  
			再生可能エネルギーの調達	購入電力の再生可能エネルギーへの切り替え			
No.	大項目	ソーシャルプロジェクト分類	ソーシャルプロジェクト			社会課題	SDGsへの貢献
			ソーシャルプロジェクト概要	対象者	社会的便益		
4	主に乳幼児の健康増進/病気予防を通して健康・長寿社会の達成に貢献する事業	必要不可欠なサービスへのアクセス (健康・健康管理)	ヒトミルクオリゴ糖製造に資する設備投資・運営・原材料の調達	一般大衆	ヒトミルクオリゴ糖配合製品を提供し、幅広い地域・年齢層のお客様の健康増進に貢献	乳幼児の健康増進	  
5	脳機能パフォーマンス向上と衰え予防を通して健康・長寿社会の達成に貢献する事業		シチコリン製造に資する設備投資・運営・原材料の調達	一般大衆、高齢者、患者	シチコリン配合製品を健康食品や医薬品原料として提供し、お客様の脳機能のパフォーマンス向上と衰え予防に貢献	脳機能のパフォーマンス向上と衰え予防	

6	免疫機能の維持を通して健康・長寿社会の達成に貢献する事業		プラズマ乳酸菌の研究開発及びプラズマ乳酸菌原料粉末の製造に資する設備投資・運営・原材料の調達	一般大衆、高齢者、脆弱な若者	プラズマ乳酸菌配合製品を提供し、お客様の免疫機能維持に貢献	免疫機能の維持	 
---	------------------------------	--	--	----------------	-------------------------------	---------	---

GBP で分類される調達資金の使途

- | | |
|---|--|
| ☒ 再生可能エネルギー | ☒ エネルギー効率（省エネルギー） |
| ☒ 汚染防止及び抑制 | ☐ 生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管 |
| ☐ 陸上及び水生生物の多様性の保全 | ☐ クリーン輸送 |
| ☐ 持続可能な水資源及び廃水管理 | ☐ 気候変動への適応 |
| ☒ 高環境効率商品、環境適応商品、環境に配慮した生産技術及びプロセス | ☐ 地域、国または国際的に認知された標準や認証を受けたグリーンビルディング |
| ☐ その他(具体的に記載) | |
| ☐ 債券発行時には未定であるが、現時点で GBP 分類または、GBP には記載されていない他の適格分野に適合することが予想される | |

SBP で分類される調達資金の使途

- | | |
|--|---|
| ☐ 手ごろな価格の基本的インフラ設備 | ☒ 必要不可欠なサービスへのアクセス |
| ☐ 手ごろな価格の住宅 | ☐ 雇用創出（中小企業向け資金供給及びマイクロファイナンス） |
| ☐ 食糧の安全保障 | ☐ 社会経済的向上とエンパワーメント |
| ☐ SBP 分類に適合すると考えられる、もしくは SBP には記載されていないが適格性のある領域である | ☐ その他(具体的に記載): |

(2) プロジェクトの評価と選定プロセス

DNV はレビューを通じて、キリン・サステナブルファイナンスにおける適格サステナブルプロジェクトの評価と選定は、経理部及び CSV 戦略部がフレームワークで定めた適格クライテリアを満たすプロジェクト（適格プロジェクト）を選定し、財務戦略担当執行役員が選定された適格プロジェクトの最終決定を行うこと、またプロジェクトの適格性については、「CSV パーパス」達成への貢献性を総合的に評価していることを確認しました。

上記のプロセスを経て評価・選定された 6 つの候補プロジェクトについて、キリンホールディングスの「CSV パーパス」に加えて「持続的成長のための経営諸課題(グループ・マテリアリティ・マトリックス)」における重要課題と密接に関連しており、キリンの環境・社会的な持続可能性に関する取組みと整合している事を確認しました。

プロジェクト選定においては、以下の除外クライテリアを設けています。また、社内で把握するプロジェクト関連のリスクについては、コンプライアンス対応を含めた事業計画のモニタリングにより四半期毎に会議体報告・審議される体制を構築しています。

<除外クライテリア>

- プラスチック製造についてはリサイクルペットを対象としていないもの
- 所在国の法令を遵守していない不公正な取引、贈収賄、腐敗、恐喝、横領等の不適切な関係
- 人権、環境等社会問題を引き起こす原因となり得る取引

プロジェクト選定に当たって、資金調達者は「Ⅱ 項 スコープと目的 (3)適用または参照される基準/ガイドライン」に示す適格クライテリアに合致していることを確認すると共に、環境関連法令及び当該地域との協定を順守するほか、社会倫理に適合した誠実な行動を取るために、キリングループコンプライアンスガイドラインに従うことを確認しました。また、適格プロジェクトに関する ESG 関連の論争が生じていた場合、適切に対処し、開示する予定です。

評価及び選定

- | | |
|--|---|
| ☒ 資金調達者の環境/社会貢献目標の達成に合致していること | ☒ プロジェクトが定義された適格カテゴリーに適合していることを示した文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
| ☒ グリーン/ソーシャル/サステナビリティファイナンスの調達資金の使途として適格なプロジェクトであり、透明性が確保されていること | ☒ プロジェクト実行に伴う潜在的な ESG リスクを特定し、管理していることを文書化されたプロセスにより評価及び選定されていること |
| ☒ 公表されている基準要旨に基づきプロジェクトの評価と選定が行われていること | ☐ (具体的に記載): |

責任に関する情報及び説明責任

- | | |
|---|--|
| ☒ 外部機関による助言若しくは検証による評価/選定基準 | ☒ 組織内部での評価 |
| ☐ その他(具体的に記載): | |

(3) 調達資金の管理

DNV はキリンホールディングスがキリン・サステナブルファイナンス実行から償還または返済までの間、どのように資金を追跡管理するかについて確認しました。DNV はキリンホールディングスが資金調達後、1 年以内に適格プロジェクトのファイナンス(新規投資)及びリファイナンスに充当する計画であることを確認しました。また、リファイナンスの場合は、キリン・サステナブルファイナンス実行時点から 5 年以内に実施した設備投資に係る支出、又は 3 年以内に発生した費用に係る支出(いずれも、償還または返済期間中に環境改善効果及び社会的便益が維持されることが確認されたプロジェクト)への充当とすることを確認しました。

資金充当状況については、半期毎にキリンホールディングスの経理管理手順に基づき、プロジェクト毎に経理部が管理することを確認しました。また、適格プロジェクトの合計金額が調達資金を下回らないように内部管理システムを用いて管理することを確認しました。調達資金は、充当されるまでの間、現金又は現金同等物にて管理する予定です。

調達資金の追跡管理:

- ☒ グリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンスにより調達された資金のうち充当を計画している一部若しくは全ての資金は、資金調達者により体系的に区別若しくは追跡管理される
- ☐ 未充当資金の一時的な投資の種類、予定が開示されている
- ☒ その他 (具体的に記載):未充当資金は現金又は現金同等物にて管理される

追加的な開示情報:

- | | |
|--|--|
| ☐ 新規投資のみに充当 | ☒ 既存及び新規投資の両方に充当 |
| ☒ 個別(プロジェクト)の支出に充当 | ☐ ポートフォリオの支出に充当 |
| ☐ 未充当資金のポートフォリオを開示 | ☐ その他(具体的に記載): |

(4) レポーティング

DNV は、調達資金が充当されるまでの間、キリンホールディングスがキリン・サステナブルファイナンスのレポーティング(年次報告)を実施し、資金充当状況を開示することを確認しました。環境改善効果及び社会的便益については、調達資金が償還または全額返済されるまでの間、以下の各指標についてレポーティングを実施予定であることを確認しました。これらのレポーティングはウェブサイト上に公表される予定です。また、調達資金の全額充当後、計画または実績に大きな変更が生じる等の重大な事象が生じた場合は、適時に開示する予定です。

<資金充当状況>

- ◆ 充当対象となる適格クライテリア及び充当金額
- ◆ 未充当金の残高及び運用方法
- ◆ 調達資金のうちリファイナンスに充当された金額

<環境改善効果>

- ◆ ヒートポンプシステム導入：GHG 削減量 (t-CO₂)

$$\left[\text{【設備導入による年間の消費都市ガス削減量 (Nm}^3\text{/年)】} \times \text{【CO}_2\text{ 排出係数 (t-CO}_2\text{/Nm}^3\text{)】} \right]^{*2}$$

$$- \left[\text{【設備導入による年間の消費電力増加量 (MWh/年)】} \times \text{【CO}_2\text{ 排出係数}^{*1} \text{ (t-CO}_2\text{/MWh)】} \right]^{*3}$$
 - *1：電気事業者別排出係数(特定排出者の温室効果ガス排出量算定用)
 - *2：従量の蒸気使用量との比較によって算出される年間の消費都市ガス削減量
 - *3：ヒートポンプシステムの導入によって増加する年間の消費電力量
- ◆ 再生 PET の調達・設備投資：リサイクル樹脂の使用比率 (%) = リサイクル樹脂使用量/ペットボトル用樹脂使用量
- ◆ 太陽光発電設備の導入：GHG 削減量 (t-CO₂) = CO₂ 排出係数 × 太陽光発電量
- ◆ 再生可能エネルギーの調達：GHG 削減量 (t-CO₂) = CO₂ 排出係数 × 再生エネ調達量

<社会的便益>

- ◆ ヒトミルクオリゴ糖製造：製品の継続使用者数(人) = 販売量 ÷ 1 日当たり摂取量 ÷ 使用期間 12 か月
- ◆ シチコリン製造(食品)：製品の継続使用者数(人) = 販売量 ÷ 1 日当たり摂取量 ÷ 使用期間 12 か月
- ◆ シチコリン製造(医薬)：製品の継続使用者数(人) = 販売量 ÷ 1 日当たり摂取量 ÷ 使用期間 6 か月
- ◆ プラズマ乳酸菌製造：製品の継続使用者数(人) = 販売量 ÷ 1 日当たり摂取量 ÷ 使用期間 12 か月

資金充当状況に関する報告事項:

- | | |
|--|--|
| ☒ プロジェクト単位 | ☐ プロジェクトポートフォリオ単位 |
| ☐ 関連する個々の債券単位 | ☐ その他(具体的に記載): |

報告される情報:

- | | |
|---|--|
| ☒ 資金充当額 | ☐ 投資総額のうちグリーンボンドにより充当された額割合 |
| ☐ その他(具体的に記載): | |

頻度:

- | | |
|--|-------------------------------|
| ☒ 毎年 | ☐ 半年ごと |
| ☐ その他(具体的に記載): | |

インパクトレポーティング（環境改善効果、社会的便益）:

- | | |
|--|--|
| ☒ プロジェクト単位 | ☐ プロジェクトポートフォリオ単位 |
| ☐ 関連する個々の債券単位 | ☐ その他(具体的に記載): |

頻度:

- | | |
|--|-------------------------------|
| ☒ 毎年 | ☐ 半年ごと |
| ☐ その他(具体的に記載): | |

報告される情報（予測される効果、若しくは発行後）:

- | | |
|---|--|
| ☒ GHG 排出量/削減量 | ☐ エネルギー削減量 |
| ☒ 製品の継続使用者数 | ☒ その他の ESG 評価項目(具体的に記載):
ペットボトルのリサイクル樹脂使用比率 |

開示方法

- | | |
|---|--|
| ☐ 財務報告書に記載(統合報告書) | ☐ サステナビリティレポートに記載 |
| ☐ 臨時報告書に記載 | ☒ その他(具体的に記載): ウェブサイトに開示 |
| ☐ レビュー済報告書に記載(この場合は、外部レビューの対象となった報告項目を具体的に記載): | |

Ⅶ. 評価結果

DNV は、麒麟ホールディングスから提供された情報と実施された業務に基づき、麒麟・サステナブルファイナンス・フレームワーク及び今回麒麟ホールディングスが実行する麒麟・サステナブルファイナンスが、適格性評価手順の要求事項を満たしており、SBG 及び関連する基準の「社会及び環境への利益をもたらす新規又は既存プロジェクトのための資本調達や投資を可能とする」という、グリーン／ソーシャル／サステナビリティファイナンスの定義・目的と一致していることを意見表明します。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社

2022 年 3 月 18 日



マーク ロビンソン

サステナビリティサービス マネージャー

DNV ビジネス・アシュアランス、オーストラリア



前田 直樹

代表取締役社長

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



金留 正人

プロジェクトリーダー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



香取 剛

アセッサー

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社



About DNV

Driven by our purpose of safeguarding life, property and the environment, DNV enables organisations to advance the safety and sustainability of their business. Combining leading technical and operational expertise, risk methodology and in-depth industry knowledge, we empower our customers' decisions and actions with trust and confidence. We continuously invest in research and collaborative innovation to provide customers and society with operational and technological foresight.

With our origins stretching back to 1864, our reach today is global. Operating in more than 100 countries, our 16,000 professionals are dedicated to helping customers make the world safer, smarter and greener.

Disclaimer

Responsibilities of the Management of the Issuer and the Second-Party Opinion Providers, DNV : The management of Issuer has provided the information and data used by DNV during the delivery of this review. Our statement represents an independent opinion and is intended to inform the Issuer management and other interested stakeholders in the Bond as to whether the established criteria have been met, based on the information provided to us. In our work we have relied on the information and the facts presented to us by the Issuer. DNV is not responsible for any aspect of the nominated assets referred to in this opinion and cannot be held liable if estimates, findings, opinions, or conclusions are incorrect. Thus, DNV shall not be held liable if any of the information or data provided by the Issuer's management and used as a basis for this assessment were not correct or complete

スケジュール-1 キリン・サステナブルファイナンス候補プロジェクト

表中に記載されている対象プロジェクトは、キリン・サステナブルファイナンス実行前評価時点(2022年3月現在)で適格性を評価済みのキリン・サステナブルファイナンス候補プロジェクトです。グリーン/ソーシャルプロジェクト分類は GBP・GBGLs、SBP・SBGLs で代表例として示される分類です。今後、キリン・サステナブルファイナンス・フレームワークに基づき実行されるキリン・サステナブルファイナンスでは、下記のサステナブルプロジェクト(グリーン、ソーシャルプロジェクト)の何れか又は複数がプロジェクトとして選定され、また、追加的にサステナブルプロジェクトが含まれる場合には事前に発行体により適格性が評価され、必要な場合には DNV により適時評価される予定です。

No.	大項目	グリーンプロジェクト分類	グリーンプロジェクト	グリーンプロジェクト概要	環境課題	SDGsへの貢献
1	省エネルギーに関する事業	省エネルギー	工場におけるヒートポンプシステムの導入	設置場所：キリンビール株式会社 北海道千歳工場・仙台工場・取手工場・横浜工場・名古屋工場・滋賀工場・神戸工場・岡山工場・福岡工場など 導入時期：2019年～2028年 総投資額：約20～30億円	気候変動の緩和 ^{*1} 経済活動・日常生活から排出される温室効果ガス(GHG)が気候変動の原因となっており、今後、豪雨や猛暑のリスクが更に高まることが予想されています。地球規模の課題として世界の国々が取組みを進めており、日本をはじめ、120以上の国と地域が「2050年カーボンニュートラル」という目標を掲げています。	  
2	汚染防止と管理に関する事業及び環境配慮製品、環境に配慮した製造技術・プロセスに関する事業	- 汚染防止と管理 - 環境配慮製品、環境に配慮した製造技術・プロセス	再生PET樹脂の調達・設備投資	日本国内のPETボトルにおけるリサイクル樹脂使用比率2027年50%に向けた再生PET樹脂の調達・設備投資	汚染防止と管理、天然資源の保全 ^{*2} 廃プラスチックの有効利用率の低さや、海洋プラスチック等による環境汚染が世界的な課題になっています。日本では、「プラスチック資源循環戦略」を策定し、プラスチックに関する資源・環境両面の課題解決を目指しています。	  
3	再生可能エネルギーに関する事業	再生可能エネルギー	工場における太陽光発電設備の導入	設置場所：キリンビール株式会社 北海道千歳工場・仙台工場・取手工場・名古屋工場・滋賀工場・神戸工場・岡山工場・福岡工場など 導入時期：2021年～2029年 総投資額：約20～30億円	上記「気候変動の緩和」参照	  
			再生可能エネルギーの調達	購入電力の再生可能エネルギーへの切り替え		

No.	大項目	ソーシャルプロジェクト分類	ソーシャルプロジェクト			社会課題	SDGsへの貢献
			ソーシャルプロジェクト概要	対象者	社会的便益		
4	主に乳幼児の健康増進/病気予防を通して健康・長寿社会の達成に貢献する事業	必要不可欠なサービスへのアクセス (健康・健康管理)	ヒトミルクオリゴ糖製造に資する設備投資・運営・原材料の調達	一般大衆	ヒトミルクオリゴ糖配合製品を提供し、幅広い地域・年齢層のお客様の健康増進に貢献	乳幼児の健康増進 ^{*3} 世界保健機関(WHO)は、母乳による育児が健康不良や疾病から乳児を守る最良の手段であると述べています。日本においては、厚生労働省の調査によると、乳児の45%が完全母乳栄養ではない(混合栄養による)育児となっており、混合栄養で育児をした母親からは、母乳による育児への高いニーズが報告されています。	  
5	脳機能パフォーマンス向上と衰え予防を通して健康・長寿社会の達成に貢献する事業		シチコリン製造に資する設備投資・運営・原材料の調達	一般大衆、高齢者、患者	シチコリン配合製品を健康食品や医薬品原料として提供し、お客様の脳機能のパフォーマンス向上と衰え予防に貢献	高齢者の脳機能改善 ^{*4} 日本では、認知症高齢者の数が2025年には約 700 万人、65 歳以上の高齢者の約5人に1人に達することが見込まれています。厚生労働省では、「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」を策定し、認知症の発症予防については、運動、口腔に係る機能の向上、栄養改善、社会交流、趣味活動など日常生活における取組みが、認知機能低下の予防に繋がる可能性が高いとし、取組みを推進しています。	
6	免疫機能の維持を通して健康・長寿社会の達成に貢献する事業		プラズマ乳酸菌の研究開発及びプラズマ乳酸菌原料粉末の製造に資する設備投資・運営・原材料の調達	一般大衆、高齢者、脆弱な若者	プラズマ乳酸菌配合製品を提供し、お客様の免疫機能維持に貢献	免疫機能の維持 ^{*5} 高齢化社会が進展する日本において、政府の「健康・医療戦略」では高齢者の未病対策が重要と考えられており、未病対策においては神奈川県が「栄養（食・口腔機能）、運動、社会参加」の重要性を指摘しています。また、政府の「SDGsアクションプラン2022」では「健康・長寿の達成」が掲げられており、具体的な取組みが求められています。そのようななかで、「プラズマ乳酸菌」が抗ウイルス免疫を活性化させることで、風邪・インフルエンザ様症状やデング熱様症状を抑制することが確認されています。	 

*1：環境省「脱炭素ポータル」(https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/about/)

*2：環境省「プラスチック資源循環」(<https://plastic-circulation.env.go.jp/about/senryaku>)

*3：厚生労働省「授乳及び離乳を取り巻く現状について」(<https://www.mhlw.go.jp/content/11908000/000464806.pdf>)

*4：厚生労働省他「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」(https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/nop1-2_3.pdf)

*5：政府「健康・医療戦略」(<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryousuisin/ketteisiryoku/kakugi/r020327senryaku.pdf>)、政府「SDGs アクションプラン 2022」

(https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_Action_Plan_2022.pdf)、神奈川県「高齢者の未病対策」(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cz6/cnt/f480290/koureisha-me-byo.html>)

スケジュール-1 参考資料 キリン・サステナブルファイナンス候補プロジェクト一例

No.	グリーン/ソーシャルプロジェクト	候補プロジェクト例(概要)
1	工場におけるヒートポンプシステムの導入	・ 設置場所：キリンビール株式会社 岡山工場 ・ 出力：空気熱源：加熱能力420kW(70kW×6台)、空気熱源：加熱能力420kW(70kW×6台)、水熱源：加熱能力590kW×1台 ・ 稼働時期：2022年3月 ・ 充当予定額：約3億円
2	再生PET樹脂の調達・設備投資	日本国内のPETボトルにおけるリサイクル樹脂使用比率を2027年までに50%を達成するためにリサイクルPET樹脂の調達を行い、「キリン 生茶デカフェ」等の商品に使用する。
3	工場における太陽光設備の導入	・ 設置場所：キリンビール株式会社 北海道千歳工場 ・ 発電容量：612kW ・ 稼働時期：2022年3月 ・ 充当予定額：約2,000万円
	再生可能エネルギーの調達	キリンビール株式会社 北海道千歳工場・仙台工場・取手工場・横浜工場・名古屋工場・滋賀工場・神戸工場・岡山工場・福岡工場などにおいて、購入電力の再生可能エネルギーへの切り替え。
4	ヒトミルクオリゴ糖製造に資する設備投資・運営・原材料の調達	・ 設置場所：Thai Kyowa新工場（第1期） ・ 年間生産能力：約300トン ・ 稼働時期：2022年 ・ 総投資額：約70億円／充当予定額：約70億円
5	シチコリン製造に資する設備投資・運営・原材料の調達	・ 設置場所：協和発酵バイオ株式会社 山口事業所 ・ 年間生産能力：従来比2.5倍 ・ 稼働時期：2023年 ・ 総投資額：約77億円／充当予定額：約77億円
6	プラズマ乳酸菌の研究開発及びプラズマ乳酸菌原料粉末の製造に資する設備投資・運営・原材料の調達	・ 設置場所：小岩井乳業株式会社 東京工場 ・ 年間生産能力：約28トン ・ 稼働時期：2019年5月、2023年3月 ・ 総投資額：約29億円／充当予定額：約29億円

スケジュール-2 キリン・サステナブルファイナンス適格性評価手順

下記のチェックリスト SF-1～SF-4 は、グリーンボンド原則 2021、ソーシャルボンド原則 2021、グリーンローン原則 2021 をはじめとする関連基準で定められる 4 つの核となる要素にもとづき、キリン・サステナブルファイナンス適格性評価用に作成された DNV 手順です。*SF; Sustainable Finance, サステナブルファイナンス

SF-1 調達資金の使途

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
1a	資金の種類	サステナビリティファイナンスの種類は SBP、GBP 等で定義される以下の種類のいずれかに分類される。 ・(標準的)サステナビリティファイナンス ・レベニューファイナンス ・プロジェクトファイナンス ・その他	確認した文書類： - キリン・サステナブルファイナンス・フレームワーク(以下、フレームワーク) キリンホールディングス関係者との協議	評価作業を通じキリン・サステナブルファイナンス（以下、サステナブルファイナンス）は以下のカテゴリーに分類されることを確認した。 ・(標準的)サステナビリティファイナンス
1b	サステナビリティ(グリーン及びソーシャル)プロジェクト分類	サステナビリティファイナンスにおいて肝要なのは、その調達資金がサステナビリティプロジェクトのために使われることであり、そのことは、サステナビリティファイナンス実行に係る法的書類に適切に記載されるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - 各プロジェクト関連情報 キリンホールディングス関係者との協議	フレームワークの中で特定されたプロジェクトが GBP、SBP 及び GLP をはじめとする基準で分類される代表的な以下の適格カテゴリーに該当する。また調達した資金は新規ファイナンスもしくはリファイナンスとして新たなプロジェクトもしくは既存のプロジェクトに充当される計画であり、資金調達に係る法的書類等に適切に記載される計画であることが確認された。 環境貢献(グリーン) ・省エネルギー ・汚染防止と管理 ・環境配慮製品、環境に配慮した製造技術・プロセス ・再生可能エネルギー 社会貢献(ソーシャル) ・必要不可欠なサービスへのアクセス
1c	環境面及び社会面での便益	調達資金使途先となる全てのサステナビリティプロジェクトは明確な環境面及び社会面での便益	確認した文書類： - フレームワーク	グリーンプロジェクトのうち、ヒートポンプシステム導入と太陽光発電設備導入プロジェクトは、CO ₂ 排出量削減として環境面での便益を有し、その環境改善効果は

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
		を有すべきであり、その効果は資金調達者によって評価され、可能な場合は、定量的に示されるべきである。	キリンホールディングス関係者との協議	CO₂ 排出削減量として定量的に評価され、年次報告されることを確認した。再生 PET 樹脂の設備投資は、廃プラスチックの有効利用率の向上や、海洋プラスチック等による環境汚染の防止に資するプロジェクトであり、その環境改善効果は、リサイクル樹脂使用比率で定量的に評価されることを確認した。 ソーシャルプロジェクトについては、スケジュール-1 に示す通り、キリンホールディングスは自らの事業活動・製品によって解決すべき日本の社会課題を定義し、その受益者を明示している。各ソーシャルプロジェクトはそれぞれ、ヒトミルクオリゴ糖製造は幅広い地域・年齢層のお客様の健康増進に、シチリン製造はお客様の脳機能改善に、プラズマ乳酸菌製造はお客様の免疫機能の維持に資する社会的便益を有していることを確認した。その効果は、継続使用者の人数で定量的に評価され、年次報告されることを確認した。 DNV はアセスメントを通じ、プロジェクト実行に関連する環境・社会影響リスクは以下の観点で考慮されており、相対的に少ないと判断した。 • 環境関連法令及び諸規則の順守(環境アセスメント実施等) • 地域との協定を順守 • キリングループコンプライアンスガイドラインの順守
1d	リファイナンスの割合	調達資金の全部あるいは一部がリファイナンスのために使われる場合、又はその可能性がある場合、資金調達者は、初期投資に使う分とリファイナンスに使う分の推定比率を示し、また、必要に応じて、どの投資又はプロジェクトポートフォリオがリファイナンスの対象になるかを明らかにすることが推奨される。	確認した文書類： - フレームワーク キリンホールディングス関係者との協議	キリンホールディングスは、調達資金を新規投資、リファイナンスの何れか又は両方に使用する計画である。これらは年次報告を通じて、調達資金のうちリファイナンスに充当された概算額(又は割合)を明らかにする予定であることを確認した。

SF-2 プロジェクト選定及び評価のプロセス

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
2a	プロジェクト選定のプロセス	サステナビリティファイナンスの資金調達者は、調達資金の使途となるプロジェクトの適格性を判断したプロセス概要を示すべきである。これは以下を含む(これに限定されるものではない) ・資金調達者が、対象となるプロジェクトが適格なサステナビリティ(グリーン、ソーシャル)プロジェクトの事業区分に含まれると判断するプロセス ・調達資金の使途となるプロジェクトの適格性についての基準作成 ・環境面、社会面での持続可能性に係る目標	確認した文書類： - フレームワーク - CSV パーパス キリンホールディングス関係者との協議	キリンホールディングスは、フレームワークに基づき、以下の基準に従いプロジェクトの選定を行った。 適格プロジェクト： ・経理部及び CSV 戦略部が候補プロジェクトを選定し、財務戦略担当執行役員が、選定された候補プロジェクトの適格性について最終決定を行った。 ・「CSV パーパス」達成への貢献性を総合的に評価し、スケジュール 1 に記載されているサステナビリティプロジェクトの適格性を判断した。 ・プロジェクトの実行に当たっては、「Ⅱ 項 スcopeと目的(3)適用される基準もしくはガイドライン」に示す適格クライテリアに合致すると共に、以下のリスク低減のためのプロセスを実施している。 <環境リスク、社会リスクを低減するためのプロセス> ・環境関連法令及び諸規則の順守(環境アセスメント実施等) ・地域との協定を順守 ・キリンググループコンプライアンスガイドラインの順守
2b	資金調達者の環境及び社会的ガバナンスに関するフレームワーク	サステナビリティファイナンスプロセスに関して資金調達者により公表される情報には、規準、認証に加え、投資家は資金調達者のフレームワークや環境性及び社会性に関連する持続性に関するパフォーマンスの品質についても考慮している。	確認した文書類： - フレームワーク - CSV パーパス - 長期経営構想 キリンググループ・ビジョン 2027 (以下、KV2027) キリンホールディングス関係者との協議	DNV は、キリンホールディングスが実施するグリーンプロジェクト及びソーシャルプロジェクトは、キリンホールディングスの「CSV パーパス」や「長期経営構想 キリンググループ・ビジョン 2027 (KV2027)」と一致しており、プロジェクトの実行に際しては、環境関連法令、条例、諸規則及び当該地域との協定の遵守、周辺環境への配慮などが考慮されていることを確認した。また DNV は、グリーンプロジェクトによる CO₂ 削減等の環境改善効果が明確になっていること、ソーシャルプロジェクトによる社会的便益が明確になっていることを、フレームワーク等の文書確認や関係者へのインタビューを通じて確認した。

SF-3 調達資金の管理

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
3a	調達資金の追跡管理-1	サステナビリティファイナンスによって調達される資金に係る手取金は、サブアカウントで管理され、サブ・ポートフォリオに組み入れ、又はその他の適切な方法により追跡されるべきである。また、サステナビリティプロジェクトに係る資金調達者の投融資業務に関連する正式な内部プロセスの中で、資金調達者によって証明されるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - Kirin Group Treasury Policy - 文書管理規程 キリンホールディングス関係者との協議	DNVは文書レビューとインタビューにより、調達した資金に係る手取金は、キリンホールディングスのKirin Group Treasury Policy及び内部管理システムによって追跡可能であることを確認した。またDNVは、実際に使用されているシステム及び関連文書等の確認を行い、これに基づき調達資金の管理状況が証明されることを確認した。
3b	調達資金の追跡管理-2	サステナビリティファイナンスを管理すべき期間において、追跡されている調達資金の残高は、一定期間ごとに、当該期間中に実施された適格プロジェクトへの充当額と一致するよう、調整されるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - Kirin Group Treasury Policy - 文書管理規程 キリンホールディングス関係者との協議	DNVは、キリンホールディングスがサステナブルファイナンスの実行から償還または返済までの期間、定期的(少なくとも半期毎)に調達資金の充当状況を管理する計画であることを確認した。
3c	一時的な運用方法	適格性のあるサステナビリティプロジェクトへの投資または支払いが未実施の場合は、資金調達者は、未充当資金の残高についても、想定される一時的な運用方法を投資家に知らせるべきである。	確認した文書類： - フレームワーク - Kirin Group Treasury Policy - 文書管理規程 キリンホールディングス関係者との協議	DNVは、未充当金の残高がキリンホールディングスの内部管理システム等を通じた確認プロセスにより、逐次認識される仕組みであることを確認した。未充当資金の残高が現金又は現金同等物で管理されることをフレームワークの記載及び評価を通じて確認した。また未充当金の残高は、資金充当状況のレポートングを通じて開示される予定であることを確認した。

SF-4 レポートニング

Ref.	基準	要求事項	評価作業(確認した項目)	DNV観察結果
4a	定期レポートの実施	調達資金の使途及び未充当資金の一時的な投資のレポートに加え、資金調達者はサステナビリティファイナンスで調達した資金が充当されているプロジェクトについて、少なくとも年に1回、以下を考慮した上で、各プロジェクトのリストを提供すべきである。 - 守秘義務や競争上の配慮 - 各プロジェクトの概要、期待される持続可能な環境・社会的な効果	確認した文書類： - フレームワーク - キリンホールディングス関係者との協議	DNV は、調達資金が充当されるまでの間、キリンホールディングスがサステナブルファイナンスの年次報告を実施し、資金充当状況を開示することを確認した。また、調達資金が償還または全額返済されるまでの間、資金が充当されたプロジェクトの環境改善効果及び社会的便益に関する情報を開示することを確認した。未充当金については残高、リファイナンスされた部分については概算額(又は割合)が開示される予定であることを確認した。 環境改善効果及び社会的便益は、守秘義務の範囲内、かつ合理的に実行可能な限りにおいて、以下の指標の何れか又は全てを開示する予定であることを確認した。 (環境改善効果) • ヒートポンプシステム導入による GHG 削減量 (t-CO₂) • 再生 PET 樹脂の調達・設備投資によるリサイクル樹脂使用比率 (%) • 太陽光発電設備の導入による GHG 削減量 (t-CO₂) (社会的便益) • ヒトミルクオリゴ糖製品の継続使用者数(人) • シチコリン製品の継続使用者数(人) • プラズマ乳酸菌製品の継続使用者数(人)